新聞記事から見る鈴鹿高専

エコカー全国GP クラスV

鈴鹿高専・スズシカ組

「余裕もった課題の洗い出し 要因」

モビリティリゾートもてぎ（栃木県）で開かれたエコカーの全国大会「2023 Ene-1 MOTEGI GP」で、鈴鹿高専（鈴鹿市）のチーム「スズシカ組」が10月、大学・高専・専門学校のクラスで優勝を果たした。代替わりした生徒たちが、来年の大会に向けて着々と準備を進めている。

（沢井秀之）

全国大会で優勝した鈴鹿高専のエコカー・プロジェクトのメンバーら＝鈴鹿市白子町の同校で

競技は、各チームが規程に沿って、40本の充電池を使用するマシンを準備。1周約1500㍍のコースを1時間でどれだけ周回できるかを競った。全国から13チームが出場した。

鈴鹿高専の生徒でつくる「エコカー・プロジェクト」では、全長約3㍍、全高50㌢、幅60㌢、重量21㌔のマシンを製作。完走を目標に、夏休みに、三重交通Gスポーツの杜鈴鹿（鈴鹿市）の屋外駐車場で、完成したマシンを使いながら、実戦を想定した課題の洗い出しに取り組んだ。

競技では、充電池の交換はできないため、スピードを出す場面を見極めながら、電池残量がなくならないようなペース配分が重要になってくる。当日は、「エコカー・プロジェクト」からは、「スズシカ組」を含めて3チームが出場した。1周ごとに、電池残量を共有。スピードを調整しながら競技に臨んだ。コース上は雨により滑りやすく、無理はし過ぎないような運転も心がけたという。

優勝チームのドライバーを務めた大倉康平さん(19)＝機械工学科4年、大紀町阿曽＝は「今回は余裕をもって課題の洗い出しをできたことが優勝の要因」と振り返る。新プロジェクトリーダーの諸岡昂さん(18)＝同3年、鈴鹿市庄野羽山＝は「来年に向けてほかの大会でもクラス優勝を目指して頑張りたい」と話した。

発行
独立行政法人国立高等専門学校機構
鈴鹿工業高等専門学校
〒510-0294　三重県鈴鹿市白子町
TEL 059-386-1031（代表）
FAX 059-387-0338
https://www.suzuka-ct.ac.jp/

中日新聞　2023年12月7日付　中日新聞社提供

鈴鹿高専 男子バレー部 全国大会3連覇

肉体強化と中心選手躍動 勝因

新チーム「底上げでV4を」

鈴鹿高専男子バレーボール部が、今年８月下旬に茨城県で開かれた全国高専体育大会で３連覇を果たした。同部は1962年度の高専設立時に創部され、2021年に全国初優勝。以来、勝利を重ねてきた。大会後に新体制となった部員たちは、早くも４連覇を見据えている。（沢井秀之）

全国大会3連覇を果たした鈴鹿高専の男子バレーボール部員ら＝鈴鹿市白子町の同校で

今年の大会は、8月26、27日に茨城県ひたちなか市で開かれた。初日は各地区大会を勝ち上がった12校が4ブロックに分かれた予選リーグ。2日目が各リーグの上位1位による決勝トーナメントだった。

チームを率いた前キャプテンの5年生、奥山陽介さん(20)＝津市＝は、ミスが続いた予選の序盤を「負けたら引退を意識したためか、硬さがあった」と振り返る。しかし徐々に硬さが取れ、長岡高専（新潟県）、鹿児島高専（鹿児島県）にいずれも2－0で勝利して予選突破した。

決勝トーナメントは、準決勝で新居浜高専（愛媛県）、決勝では松江高専（島根県）と対戦。松江は登録メンバー14人のうち、中学時の県選抜が半数以上を占める強豪。「勝っても負けても最後の試合。全力でやり切るしかない」と試合に臨み、残り2セットを僅差でものにして勝ち切った。

チームの核を担ってきたのが、新キャプテンになった4年生のスパイカー、後藤柊人さん(19)＝津市＝だ。相手の動きを見ながらコースを読む力に優れており、コロナで中止になった三重国体のビーチバレーボールの代表選手にも選ばれた実力派。セッターの奥山さんとともに、攻撃の起点になってきた。

20年間監督を務めてきた淀谷真也さん(49)＝津市＝は、3連覇の原動力としてフィジカル面の強化と核となる選手を挙げる。体育教員として赴任した宝来毅さん(36)＝京都府＝は18年度から顧問に就き、トレーニング面で選手たちの能力を伸ばしてきた。

チームは大会後、主力だった奥山さん、ミドルブロッカーの杉山流唯さん(19)＝四日市市、リベロの浜田椎大さん(20)＝亀山市＝ら5年生が引退。レギュラー7人のうち、3人が高専からバレーを始めた若いチームとなった。後藤さんは、「代替わりして力が落ちている。先輩たちがつないできてくれた3連覇。大変だけど底上げをして、4連覇を目指したい」と話した。

鈴鹿 男子団体3連覇 全国高専テニス

8月下旬に東京都内で開かれた全国高専テニス選手権大会で、鈴鹿高専のテニス部が、男女アベック優勝を果たした。男子団体は3連覇で、富山商船高専（当時）が1980年と2006年に実現して以来の大会タイ記録。女子団体も他校と混成で出場し、オープン記録で優勝した。（沢井秀之）

富山商船に並ぶタイ記録

同校は、コースや球種を使い分けながら攻めるパターンを増やすことに重点を置き、戦略性を強化。外部指導員を招いて、学外での自主練習を含め、平日は3～4時間、土日は5～6時間、汗を流してきた。

各地区大会を勝ち抜いた全国大会はトーナメント方式。初戦シードとなった男子は、2回戦を2－1、準決勝を2－0、決勝を2－1で勝ち、優勝を果たした。

今年初出場の女子は「東海・北陸代表」として、石川高専の生徒と組み、団体戦に出場。1回戦を2－1、2回戦を3－0、決勝を2－1で勝ち抜いた。

マネジャーやサポーターも、ベンチでの声かけ、相手選手のプレーの偵察などの情報収集で貢献。勝利を後押しした。

キャプテンの牧野陽向さん(19)＝4年、鈴鹿市下箕田＝は「テニスに専念できる環境をつくってくれた。みんなで取れた優勝」と話し、「来年は優勝すれば、男子は史上初の4連覇。技術面だけでなく、体力面で不足している部分があるので（伸ばして）、他に負けないチームになりたい」と話した。

全国大会に出場したのは、男子は牧野さんのほか白石直央さん(19)＝5年、四日市市小杉町▽田中稜人さん(20)＝5年、菰野町菰野▽河北源太さん(16)＝2年、四日市市東日野▽田上瞬也さん(19)＝4年、多気町片野▽宮崎遥矢さん(17)＝2年、四日市市松本＝の計6人。女子が、青木あまねさん(19)＝4年、鈴鹿市西条▽牧野史夢さん(18)＝3年、四日市市赤堀▽谷口歩優さん(17)＝2年、鈴鹿市南玉垣町＝の3人。

このほか、マネジャーの馬渕透さん(20)＝5年、四日市市みゆきケ丘、いずれもサポーターの多湖悠人さん(19)＝5年、桑名市星見ケ丘▽大平渚斗さん(19)＝4年、四日市市あさけが丘▽伊藤紬さん(18)＝4年、亀山市関町中町▽矢野妃菜さん(17)＝2年、鈴鹿市矢橋＝らもコート外から出場選手を支えた。

女子は他校との混成でV

上男子団体3連覇を喜ぶテニス部員ら　右女子団体で優勝したメンバーら＝いずれも鈴鹿市白子町の鈴鹿高専で

高専発 ランドセルサブスク

4ヵ月ごとに好きな色選択

23年度に実証実験

鈴鹿工業高等専門学校（三重県鈴鹿市）発のスタートアップのリーセル（同）は、小学生が使うランドセルをサブスクリプション（定額課金）で貸し出すサービスを始める。4カ月ごとに好みのランドセルを選んで6年間使えるようにする。料金設定したうえ、2023年度から貸し出しの実証実験をする予定だ。

鈴鹿高専は22年3月に自動車部品製造のエイベックス（名古屋市）と産学官協働研究室を設置した。学生は同社関係者から起業や経営についての講義を受け、10年後の企業像や持続可能な会社などを研究。11月にはエイベックスの全額出資で、リーセルが誕生した。

社長に就任したのは電子情報工学科4年の川口和花奈さん。同科の板谷年也准教授の指導のもと、川口さんなど6人の学生が、創造工学の授業の一環として22年4月からビジネスプランの策定に乗り出した。

6人は自分たちの小学生時代の体験なども踏まえて、サービスを検討した。ネット上で「小学校入学前に選んだランドセルに対して、高学年になって後悔した」という声があったことなどから、学年や性別に関係なくいつでも好きな色のランドセルが選べようにしたいと考えたという。

サイト上で貸し出しの手続きをして外部決済する仕組みを検討。卒業後には不要になるランドセルの再活用についても考慮したという。

リーセルは今回のビジネスプランについて、女子高専生を中心にSDGsなどさまざまな社会課題の解決に向けた技術開発、アイデアを提案する「高専GIRLS SDGs×Technology Contest（高専GCON）」（日本経済新聞社共催）への出場を目指した。本選出場を果たせなかったが、引き続き活動は継続する予定だ。

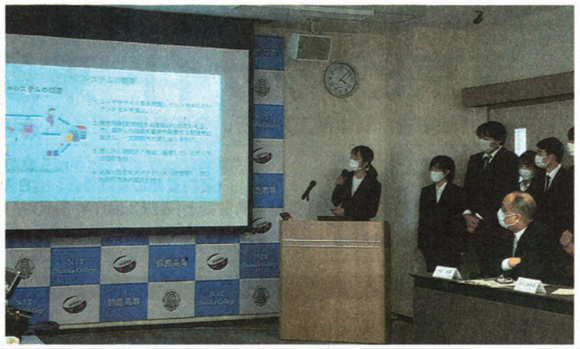
5年制の高専は4年生が進級すると、大学編入や企業への就職準備の時期に入るため「社長の代替わりの仕組みを整えて、事業を次の世代に橋渡ししたい」（指導役の板谷准教授）考えだ。高専GCONへの本選出場も引き続き目指す。

23年度に向けては事業の具体化を進める。22年10月に行った同高専の学園祭「鈴鹿高専祭」で学生の保護者にアンケート調査した結果、ランドセルをレンタル料金について4カ月で4980円という設定に対しては「ちょうどよい」が36%、「やや高い」が39%でほぼ拮抗したという。

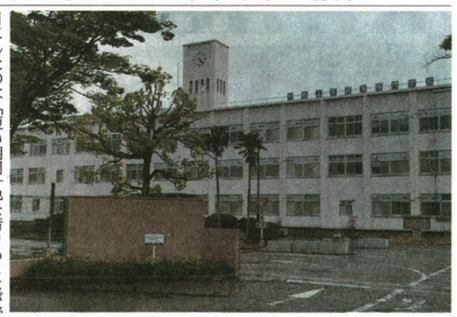
貸し出しの期間を4カ月にしたのは「短い期間で好みが変わったら違う色を借りることができるようにする」（メンバーの学生）狙い。160個以上のランドセルを貸し出すことで利益が得られると想定している。

今後、正式な料金を決めて、実際にランドセルの貸し出しサービスを実証実験を春以降実行する考えだ。「ランドセルのリサイクルについても今後幅広く考える」（板谷准教授）としている。

鈴鹿高専は1962年に全国に12校設置された国立高専の1期校のひとつ。5年次までの5学科と卒業生が進む専攻科がある。学生数は約1100人。（津支局長　小山隆司）



ランドセルのサブスクのビジネスプランを説明する鈴鹿高専の学生（1月、三重県鈴鹿市）



鈴鹿高専は国立高専の1期校の1つとして1962年に開校した（三重県鈴鹿市）

日経MJ　2023年3月3日付　日本経済新聞社提供
日本経済新聞社より記事使用の許諾を得ています。無断で複写・転載を禁じます。

伊勢新聞　2023年12月15日付　伊勢新聞社提供

鈴鹿高専が「ベスト100」

高校生ビジネスプランGP

【鈴鹿】日本政策金融公庫による「第十一回創造力、無限大∞　高校生ビジネスプラン・グランプリ」に応募し、上位百組に選ばれて「ベスト100」を受賞した鈴鹿市白子町の鈴鹿高専電子情報工学科三年生五人のチームが十四日、同校で表彰を受けた。県内の受賞校は同校のみ。同校の受賞は二年連続となる。

若者の創業マインド向上を目的としたコンテストで、ことしは全国から五百五校、五千十四件の応募があった。一月七日にグランプリが決まる。

今回受賞したチームのメンバーは藤本瑛太さん（一七）、伊藤有希さん（一七）、原田琉太郎さん（一七）、南心結さん（一八）、渡辺魅珀さん（一七）。

受賞プランは「ガラッとちょこっと模様替え」。アプリを使ったAR（拡張現実）技術による部屋の模様替えのシミュレーションを通して、自由な部屋づくりを提案する。書類選考で高い評価を受けて選ばれた。

生徒らは総合学習の一環として、六月から約二カ月かけてプランづくりに取り組んだという。

リーダーの藤本さんは「チームの雰囲気も良く、楽しみながら考えることができた。収支計画に力を入れ、アンケートを取るのは大変だったがプランの根幹となる裏付けができた」と話した。

同日、同校で表彰式があり、四日市支店の北橋浩二郎支店長が「今回の経験を今後の勉強や生活に生かして」とあいさつし、表彰状と記念メダルを五人に手渡した。

「ベスト100」の受賞を喜ぶ生徒ら＝鈴鹿市白子町の鈴鹿高専で

全国・国際大会で活躍 13選手3団体たたえる

鈴鹿市スポーツ功労者表彰

伊勢新聞
2024年2月29日付
伊勢新聞社提供

【鈴鹿】鈴鹿市は二十八日、同市役所で本年度の市スポーツ功労者表彰式を開き、「特別スポーツ功労者」「スポーツ功労者」として、全国・国際スポーツ競技大会で活躍した市ゆかりの選手十三人と三団体の功績をたたえた。

国際大会や国内最高峰リーグでの優勝または準優勝、全国大会で三回以上の優勝を対象とした特別スポーツ功労者に選ばれたのは、水泳の「クイーンズランドスイミングチャンピオンシップ」で優勝した市立玉垣小六年の一尾彩央依選手（二）ら六人と「第五十六、五十七、五十八回全国高等専門学校体育大会」で優勝した鈴鹿高専男子バレーボール部、同男子テニス部、同女子バスケットボール部の三団体。

国際大会出場者や全国大会優勝者を対象にしたスポーツ功労者に選ばれたのは「第五十八回全日本大学女子ソフトボール選手権大会」で優勝した中京大四年の服部夏実選手（二）など七人。

表彰式では末松則子市長が「これからも、自身の目標に向かって競技に取り組んで。全国や世界での活躍に期待している」と選手らを激励し、表彰状を一人ずつ手渡した。

表彰状を受け取った一尾選手は「うれしかった。これからも水泳を頑張る」と話した。

表彰を受けた選手ら＝鈴鹿市役所で

中日新聞　2024年1月30日付　中日新聞社提供

「得意な文系で認められた」

全国高校生読書体験記コン表彰式

鈴鹿高専・南さん喜び

賞状を手に笑顔を見せる南さん＝東京都文京区の東京ドームホテルで

「第43回全国高校生読書体験記コン」（一ツ橋文芸教育振興会主催、中日新聞社など後援）で、一ツ橋文芸教育振興会賞を受賞した鈴鹿高専3年の南心結さんが29日、東京都内で開かれた表彰式に臨んだ。

コンクールは高校生が読書体験を通じて自分の内面や実生活に及ぼした影響などをつづった体験記が対象。全国381校から6万4422点の応募があり、作家の辻原登さん、角田光代さん、歌人の穂村弘さんらが選考委員を務めた。

南さんが選んだのは、小川哲著「君のクイズ」（朝日新聞出版）。選考委員からは、体験記文末の「クイズが私の人生を作っている」という表現に注目が集まった。角田さんは「今回、もっともユニークだった。クイズと人生は、たしかにある意味でしっかりとつながっている」と講評した。

表彰状を受け取った南さんは「理系の学校に通っているけど、得意な文系で認められてうれしい」と喜びを語った。（小形佳奈）

ロボコン東海北陸大会

鈴鹿高専Aが優勝

自作のロボットを使いフルーツに見立てたボールを回収する出場者ら＝石川県の金沢工業大で

「アイデア対決・全国高専ロボットコンテスト（高専ロボコン）2023」の東海北陸地区大会が、金沢工業大（石川県野々市市）で開かれた。

今年の競技テーマは「もぎもぎ！フルーツGOラウンド」。制作したロボットが段差などの障害物を乗り越えながら、コート内にぶら下がるフルーツに見立てたボールを回収していく。地区内の10校・キャンパスから20チームが出場した。

大会は、予選リーグと決勝トーナメントを行い、2分30秒以内にロボットのアームなどを使って獲得したフルーツの種類や量で競った。

優勝は鈴鹿高専Aで、準優勝の豊田高専A（愛知県）、アイデア賞の富山高専本郷キャンパスB（富山県）、デザイン賞の鳥羽商船高専Aの計4チームが11月の全国大会に進む。（青山尚樹）

中日新聞　2024年1月25日付　中日新聞社提供

「本きっかけで変わった」

全国高校生読書体験記コンで中央入賞

鈴鹿高専・南さん

一ツ橋文芸教育振興会賞を受賞した南さん＝鈴鹿市白子町の鈴鹿高専で

「第43回全国高校生読書体験記コンクール」（一ツ橋文芸教育振興会主催、中日新聞社など後援）で、鈴鹿高専3年の南心結さん(18)＝電子情報工学科、鈴鹿市＝が、中央入賞の一ツ橋文芸教育振興会賞を受賞した。応募作では、クイズ大会にまつわるミステリー小説「君のクイズ」（小川哲著）を読み、さまざまな体験を心がける日々などをつづった。（沢井秀之）

ミステリー小説「君のクイズ」

南さんは、小さいころからクイズが好きで、最近はオンラインのクイズゲームなどで対戦している。X（旧ツイッター）でやりとりする友人の間で「この中にクイズのすべてが詰まっている」と、「君のクイズ」が話題になり、関心をもった。テクニックを学ぶつもりで手に取ったが、読み進めるうちに、知識を詰め込むのではなく自ら体験することの大切さを学んだという。

過去にした失敗、昔聞いたラジオ、彼女が好きだったもの…。物語の中で、登場人物はさまざまな経験を基に答えていた。情報として覚えるのではなく、目で見て体験すること。五感を使って覚えることが、長く記憶できる。一見遠回りに見えるやり方が、近道になることを学んだ。

「本を読んだことがきっかけで変わった」と話す南さん。伊勢神宮、那智の滝など、クイズによく出るところに家族で出かけたり、食べ物を食べたり。体験記の中では「私はクイズを食べている。クイズで正解できなかったムサカを食べ、チャイを飲む。パネトーネは用意できなかったので、少し似たシュトーレンを」などとつづった。

体験記の終盤で、「クイズが私の人生を作っているのだ」と表現した南さん。「有力プレーヤーとオンラインで戦う機会がある。経験を積んで、得意分野以外でも、答えられるようになりたい」と話した。

◇

コンクールは県内で、亀井天翔さん（鈴鹿高専3年）、山口丹衣奈さん(同)、清水結菜さん（暁高校1年）、川上さくらさん（同2年）が入選した。

ロボットプログラムを体験

飯野・稲生の学童保育所が鈴鹿高専で

ロボットの動きを見守る児童

鈴鹿市の鈴鹿高専で先月21日、飯野、稲生の学童保育所を利用する児童約20人がロボットをプログラムで動かす体験をしました。

同保育所を運営する日の本福祉会と高専電子情報工学科が企画。これまでに高専生が開発したゲームの体験や学校見学で交流をしています。

児童らは交代で、キャタピラ駆動のロボットを的の上で停止させるプログラムを入力。指示通りに、的の黒丸上で止まると「やった！」と笑みをこぼしていました。

鈴亀ホームニュース　2023年2月11日付　中日三重サービスセンター提供

中日新聞　2023年11月7日付　中日新聞社提供

起業マインド 工房で育て

鈴鹿高専 工作機械や会議スペース整備

時代の変化に合わせ、学生時代から起業マインドを育ててもらおうと、鈴鹿高専（鈴鹿市白子町）は、学生のアイデア実現を支援する「起業家工房」を整備した。工作機械やミーティングスペース、動画撮影スタジオなどを備え、民間企業が事業化に向けたアドバイスなどを行う。（沢井秀之）

上 起業家工房内の試作室に設けられた3Dプリンター
下 開所式でテープカットをする関係者＝いずれも鈴鹿市白子町の鈴鹿高専で

民間企業 助言や資金調達支援

工房は、同校のイノベーション交流プラザを改装して整備した。全体で約240平方メートル。主に「ミーティング・プレゼンスペース」と「試作室」で構成される。

試作室には、ガラスやアルミなどを加工するウオータージェット加工機、3Dプリンター、電子回路基板が作れる基板加工機などを設置して、生徒たちが考えた商品アイデアをすぐに実現できるようにした。ミーティング・プレゼンスペースは、仕切りを少なくして、くつろいでコミュニケーションできる空間を意識している。テレビ会議システムや、近年人気を集めている動画配信用のスタジオなども設けた。

アイデアの実現に向けて協力するのは、高専生のキャリア支援を行う「プロッセル」（新潟市）。事業化のアドバイスや資金調達などで支援する。

高専でも近年、起業への関心を持つ生徒は増えているといい。竹茂求校長は「受動的に学ぶのではなく、自分で新しく変わることを意識できるようなマインドをつくってほしい」と話した。

電気電子工学科5年の橋本樹輝さん(20)＝四日市市＝は「外部注文よりも、早いし、失敗しても直して作れば良い。新しいことに挑戦できる」と意欲をみせた。

工房整備は、文部科学省が進める高専を対象にしたスタートアップ支援制度を活用した。

中日新聞　2024年2月2日付　中日新聞社提供